



地域研究集会

第 8 回北海道水産海洋地域研究集会
北海道におけるサケ資源の持続的利用に向けて

日 時：2025 年 1 月 21 日（火）13：00～16：40（12 時 15 分開場）

場 所：かでの 2.7 820 研修室・オンライン

共 催：道総研水産研究本部



コンビナー：藤原 真（道総研さけます内水試）、春日井 潔（道総研さけます内水試）、
實吉隼人（道総研さけます内水試）、佐野 稔（道総研栽培水試）

参加登録：下記 URL もしくは QR コードからお申し込み

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZEsf-mvrzItHtenGRx1uXHszQTnJJbohOd->

問合せ先：jsfo-sapporo@hro.or.jp

総合司会：佐野 稔（道総研栽培水試）

挨拶：木村伸吾（水産海洋学会長） 13:00～13:05

星野 昇（道総研水産研究本部） 13:05～13:10

趣旨説明：藤原 真（道総研さけます内水試） 13:10～13:15

座 長：藤原 真（道総研さけます内水試）

基調講演

衛星リモートセンシング・数値予測モデルを利用したサケ資源生産のスマート化
齊藤誠一（北海道大学名誉教授） 13:15～14:00

話 題

1. 沿岸域における動物プランクトンの群集構造の動向 14:00～14:30
佐藤智希（水産機構・資源研）

2. 北海道東部におけるサケ稚魚放流適期の検討 14:30～15:00
春日井 潔（道総研さけます内水試）

一休 憩一 15:00～15:10

3. オホーツク沖合域で採集されたサケ幼魚の分布と特徴 15:10～15:40
越野陽介（道総研さけます内水試）

4. 回帰時期の沿岸水温がサケの回遊行動に与える影響 15:40～16:10
實吉隼人（道総研さけます内水試）

総合討論：藤原 真（道総研さけます内水試） 16:10～16:40

閉 会

開催趣旨：北海道に来遊する秋サケは 2004 年の 6,000 万尾をピークに減少に転じ、近年は 2,000 万尾前後まで低迷している。加えて地域間格差も拡大しており、特に太平洋側での来遊数減少が著しい。来遊数減少の要因の一つとしては近年の海洋環境の変動が挙げられ、降海後のサケ稚魚の初期生残への沿岸域の環境条件の影響が指摘されている。また、近年サケの来遊時期である 9 月の海水温が高い年の頻度（直近 4 か年中 3 年）が増えており、サケ親魚の回帰行動への影響もみられている。本研究集会では、基調講演としてサケ稚魚の放流日を決定するための水温予測システム等について紹介する。話題提供では、沿岸域における餌環境の最近の動向を理解し、サケ



稚魚の放流適期の検討事例をふまえて、サケ稚幼魚の分布の特徴と回帰時期の海水温がサケの回帰行動に与える影響について紹介し、持続的利用に向けた取り組みについて議論する。